



COMMANDER Lite

ユーザーマニュアル

2023年8月

Rev. 1.0

目次

1	COMMANDer Lite のインストール方法	2
1.1	インストーラダウンロード	2
1.2	インストール	2
2	COMMANDer Lite の操作方法	4
2.1	立上げ	4
2.2	ホーム画面	5
2.3	ステータス画面	7
2.3.1	詳細情報	9
2.3.2	設定	10
2.4	操作画面	13
2.4.1	映像	13
2.4.2	音声	15
2.4.3	RS-232	16
2.4.4	RS-232 コマンド	17
2.4.5	プリセット	18
2.5	基本設定画面	20
2.6	リモート接続画面	21

1 COMMANDer Lite のインストール方法

1.1 インストーラダウンロード

インストーラは下記サイトよりダウンロードして下さい。

<https://canare.jp/cdn/download/>

なお、ダウンロードする際にはユーザ登録が必要になりますので、未登録の方は下記サイトより事前に登録をお願いいたします。

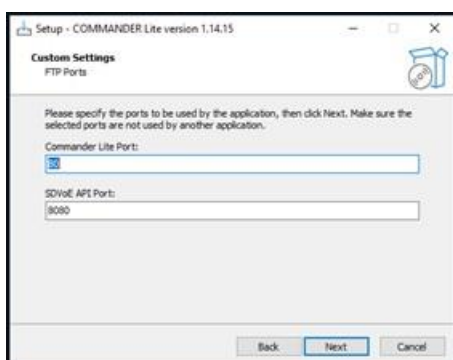
<https://canare.jp/cdn/support/>

1.2 インストール

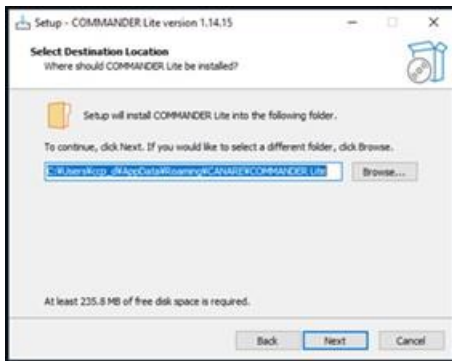
1. インストーラファイル「COMMANDER Lite-1.14.15 Setup.exe」をダブルクリックします。
2. 指示にしたがいインストールを進めます。



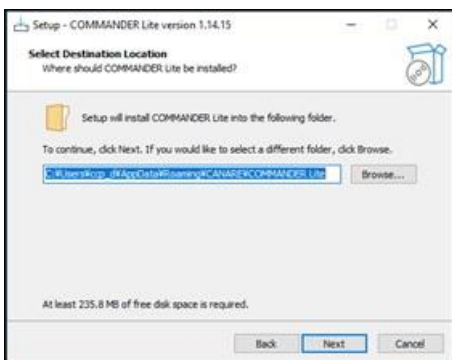
License Agreement に同意いただき、「I accept the agreement」を選択、「Next」をクリック



「Commander Lite Port」「SDVoE API Port」にそれぞれ 80、8080 を入力し、「Next」をクリック



インストールフォルダを選択し、「Next」をクリック



「Install」をクリック

「Complete the COMMANDER Lite Setup Wizard」が表示されたら「Finish」をクリック

2 COMMANDer Lite の操作方法

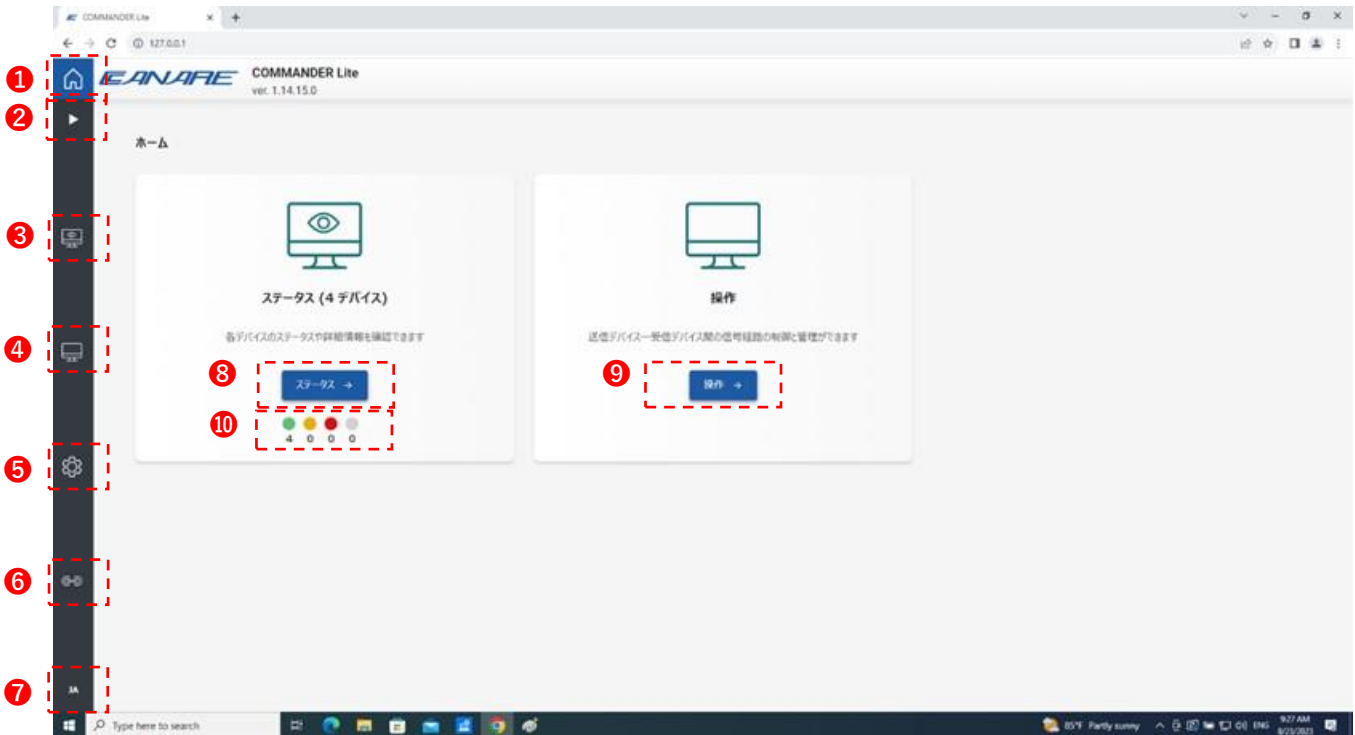
2.1 立上げ

COMMANDER Lite を立上げるには、COMMANDER Lite がインストールされた PC でブラウザを起動し、アドレスバーにその PC の IP アドレス、または”127.0.0.1”、あるいは”localhost”を入力します。

インストール後、初めて立上げた場合にのみライセンス契約が表示されますので、内容に同意の上、ACCEPT ボタンをクリックして下さい。

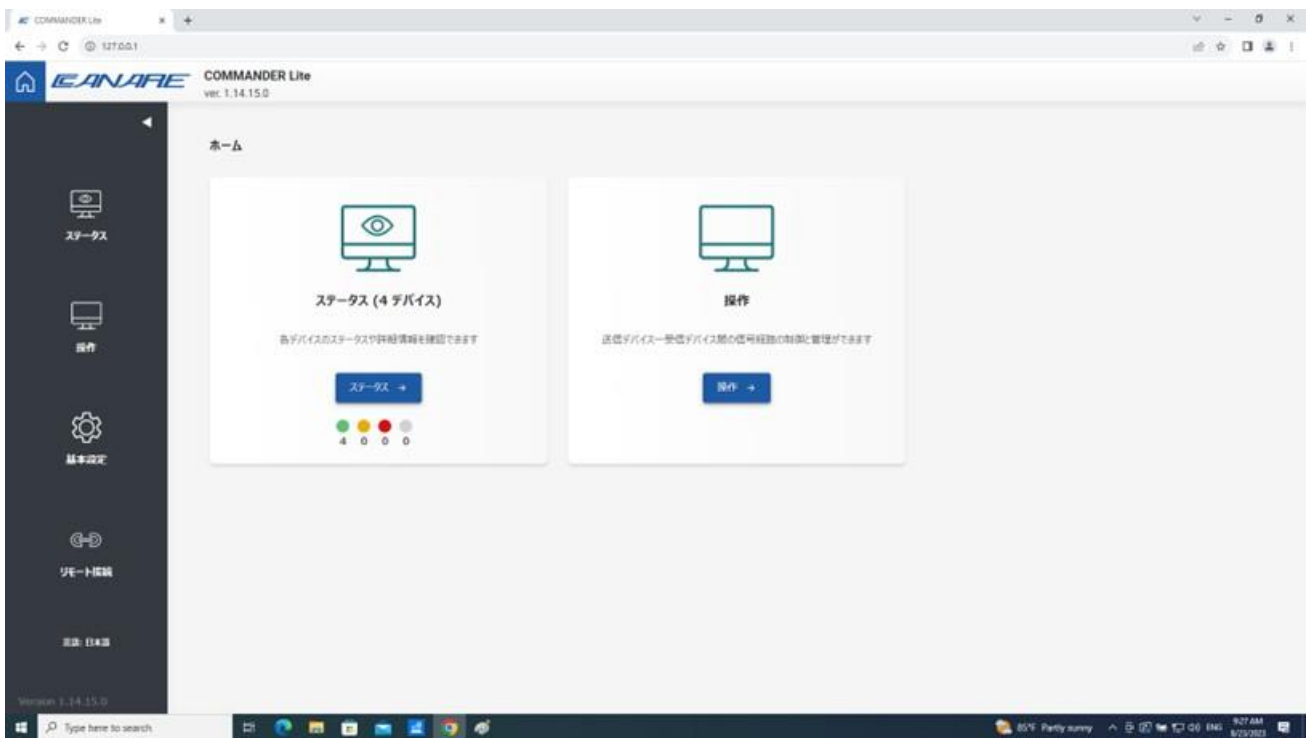
2.2 ホーム画面

COMMANDER Lite を立上げると下記画面が表示されます。

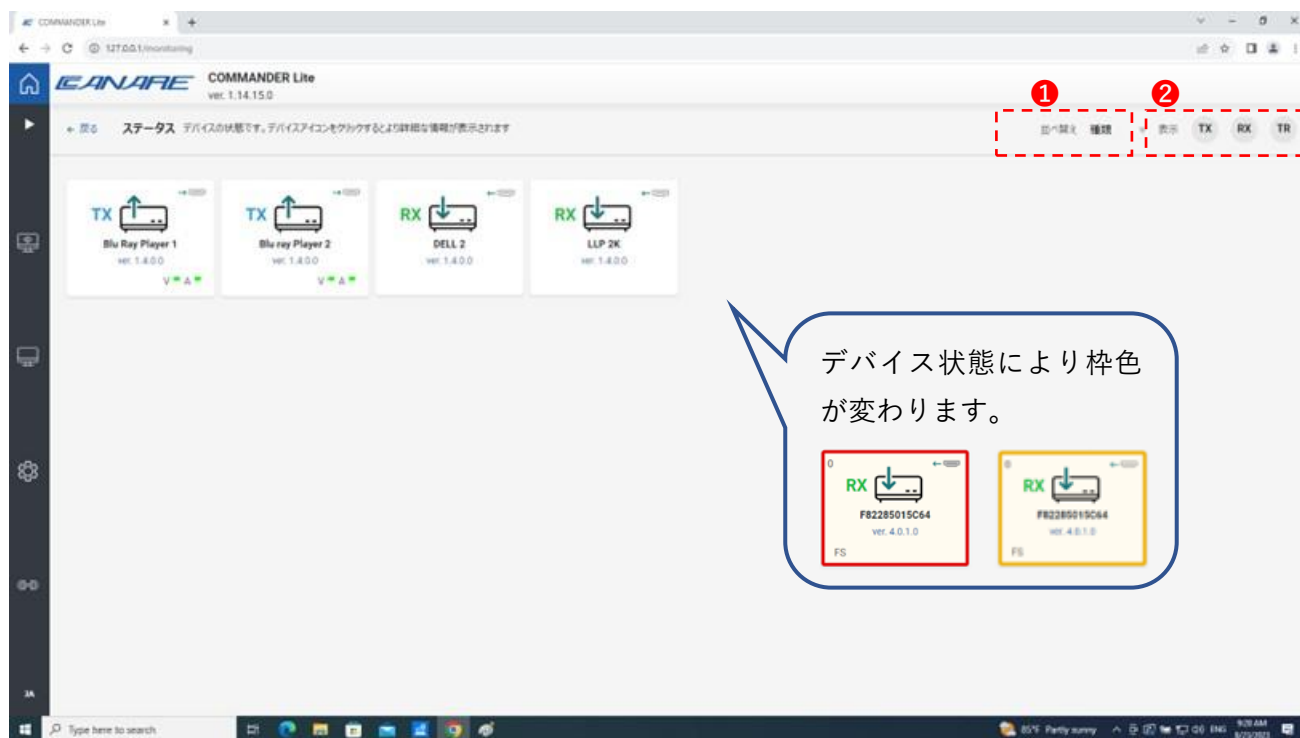


- ① ホーム画面へ
- ② ピクトグラム表示展開（次ページ図参照）
- ③⑧ ステータス画面へ
- ④⑨ 操作画面へ
- ⑤ 基本設定画面へ
- ⑥ リモート接続画面へ
- ⑦ 言語選択
- ⑩ デバイス状態表示
 - 緑 … 正常に HDMI 伝送されている送受信デバイス台数
 - 黄 … 接続は正常だが、HDMI 信号を送受信していない送受信デバイス台数
 - 赤 … HDMI 機器と接続されていない送受信デバイス台数
 - 灰 … 当初認識されていたが途中で認識されなくなった送受信デバイス台数

「ピクトグラム表示展開」 ボタンをクリックすると下記のような表示になります。

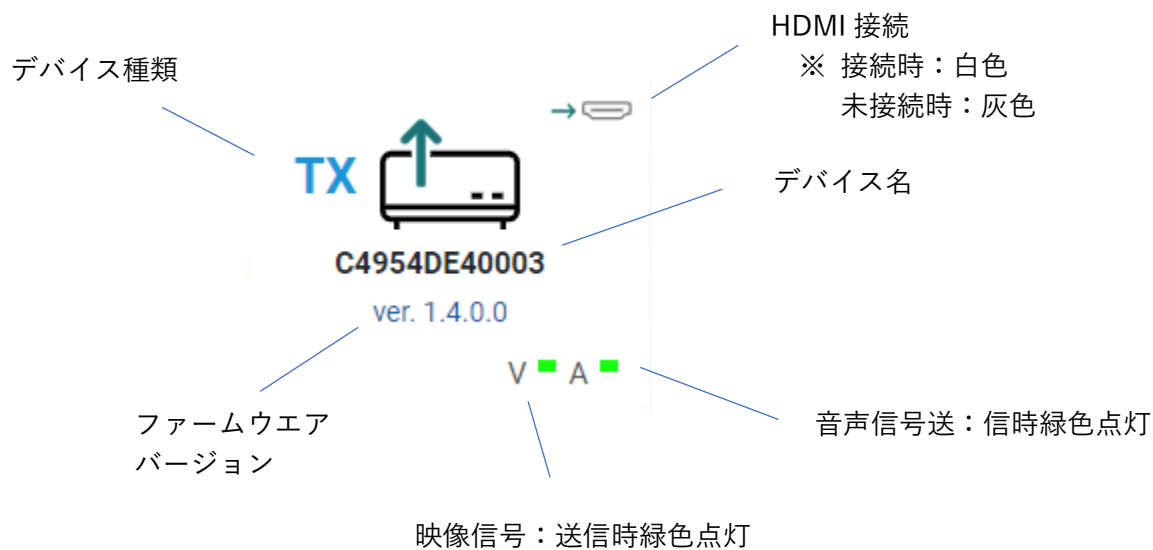


2.3 ステータス画面

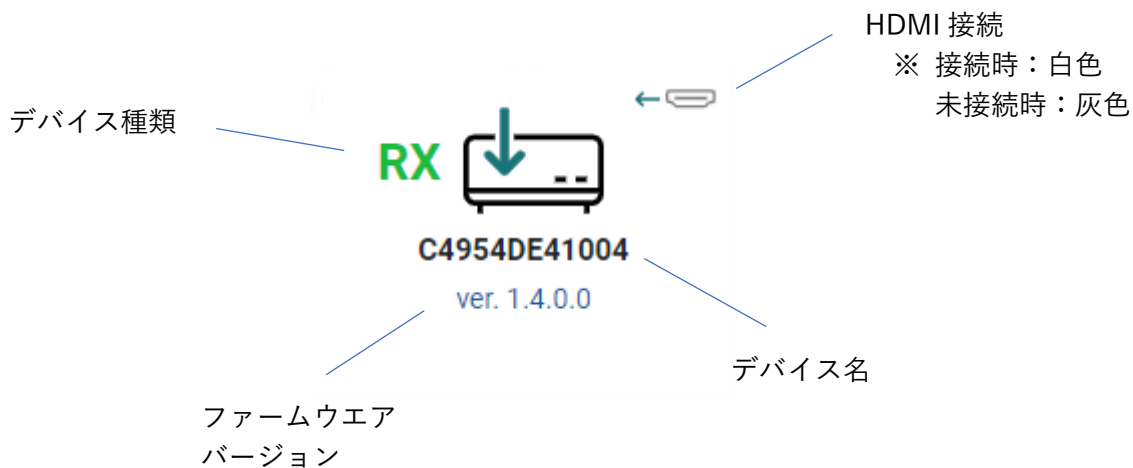


- ① デバイスの「種類」、「状態」、「名前」による並び替え
※ デバイス状態は 2.2 節⑩ 緑、黄、赤、灰の順となります。
- ② 表示デバイス選択
RX：受信デバイスのみ表示 TX：送信デバイスのみ表示
TR：送受信デバイスのみ表示

【デバイスアイコン説明 (TX)】

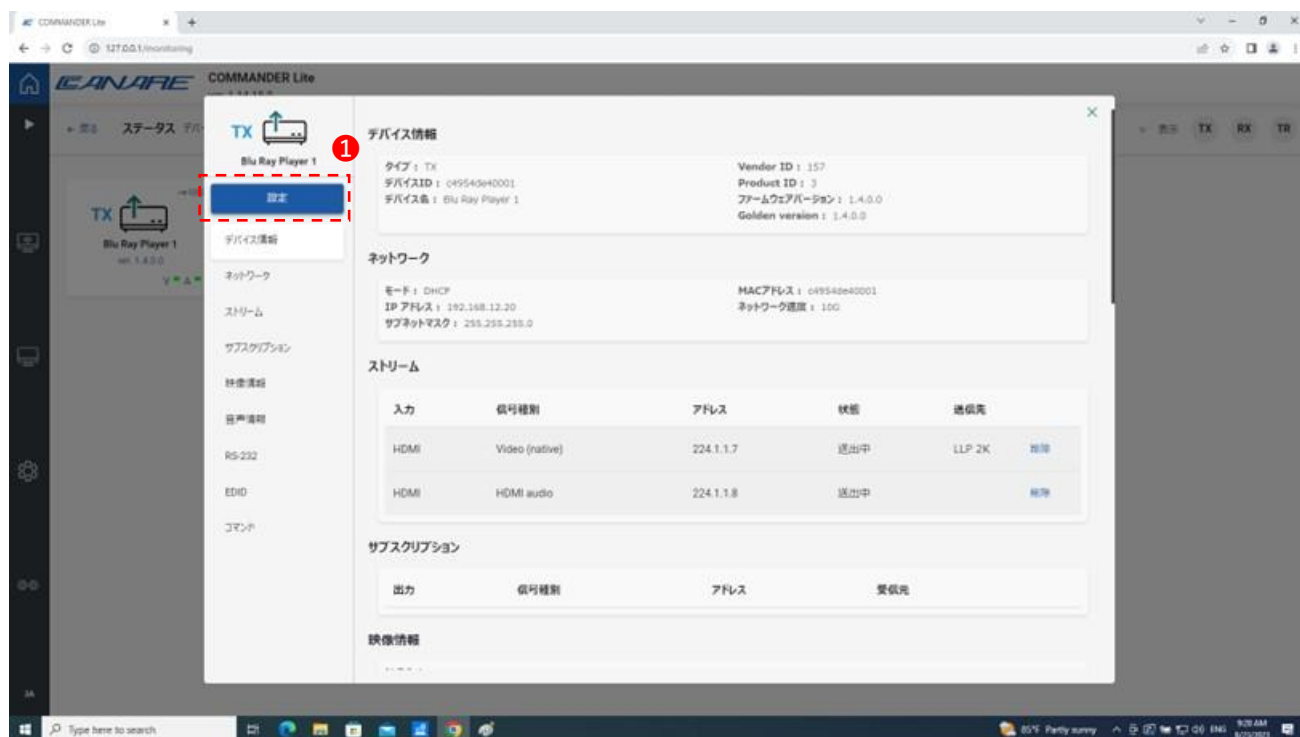


【デバイスアイコン説明 (RX)】



2.3.1 詳細情報

ステータス画面上の各デバイスカードアイコンをクリックすると、各デバイスの詳細情報が表示されます。

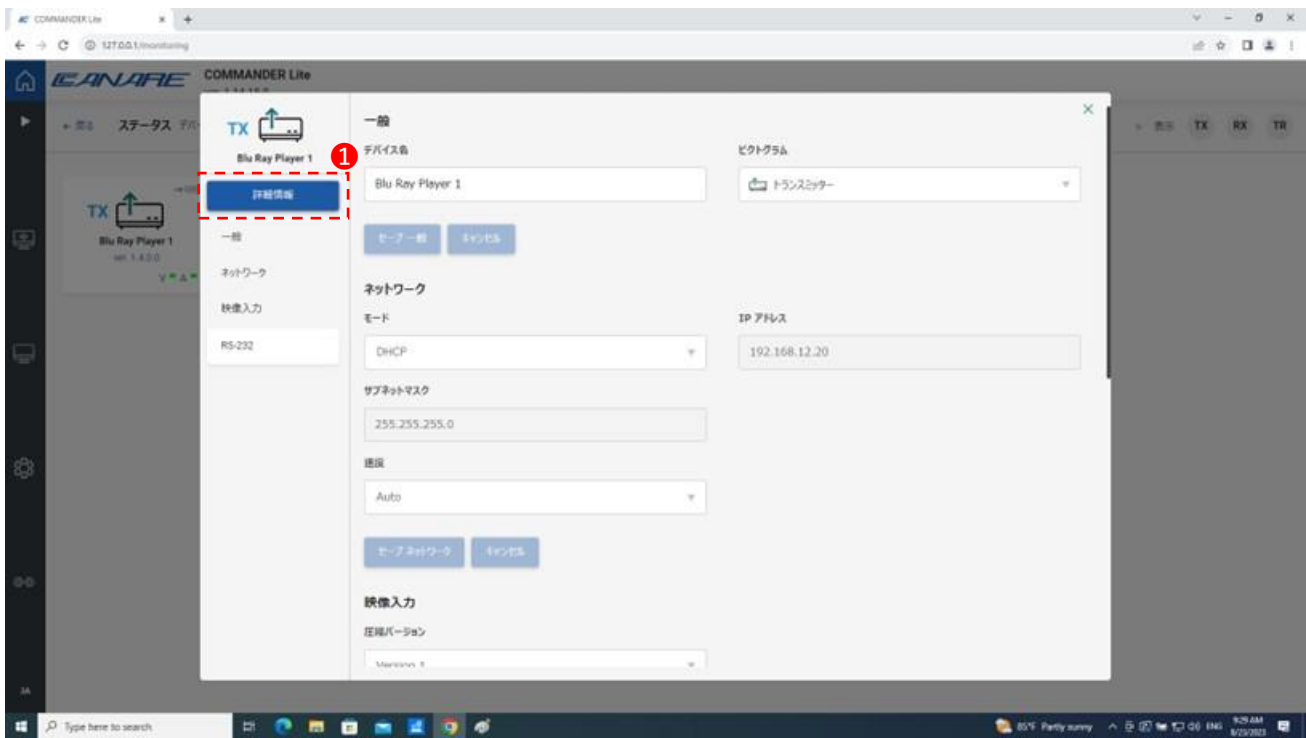


① デバイス設定画面へ

表示項目は以下の内容になります。

- ・デバイス情報 … デバイスの基本情報
- ・ネットワーク … ネットワークの設定状況
- ・ストリーム … 送信データの状況
- ・サブスクリプション … 受信データの状況
- ・映像情報 … 映像の詳細情報
- ・音声情報 … 音声の詳細情報
- ・RS 232 … RS-232 ポートの設定状況
- ・EDID … TX：送信デバイスに設定されている EDID 情報
… RX：受信デバイスに接続されている HDMI 機器の EDID 情報
- ・コマンド … 「再起動」ボタンを押すとデバイスは再起動します

2.3.2 設定



① デバイス詳細情報画面へ

設定項目は以下の内容になります。

◆ TX 設定

【一般】

- ・デバイス名 : 任意の名称に変更可能です（英数字のみ）
- ・ピクトグラム : プルダウンメニューから選択可能です

【ネットワーク】

- ・モード : DHCP または固定アドレスの選択が可能です
- ・IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・サブネットマスク : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・速度 : 接続するネットワークスイッチによって速度を変更することが可能です
特別な場合を除いて「Auto」でご使用下さい

【映像入力】

- ・圧縮バージョン : 特別な場合を除いて「Version 1」でご使用下さい
映像が 4K60 の場合は伝送帯域抑制のため軽圧縮を行います
この場合、送信先の RX とバージョンを合わせる必要があります
- ・デコーダ EDID : TX の EDID データを RX に接続された HDMI 機器（モニタ等）の
EDID データに書き換えることが可能です
コピーする HDMI 機器が接続された RX を選択し、「コピー」を
クリックし、セーブして下さい

【RS 232】

- ・通信速度 : 2400/4800/9600/19200/38400/57600/76800/115200 から選択できます
- ・データビット : 6/7/8 から選択できます
- ・ストップビット : 1/2 から選択できます
- ・パリティ : None/奇数/偶数から選択できます

※ 伝送不具合などが起こった際にどのデバイスに不具合が起きているかが容易に判別できるよう、実際のデバイスとの対応がわかりやすいデバイス名の設定を推奨します。

◆ RX 設定

【一般】

- ・デバイス名 : 任意の名称に変更可能です（英数字のみ）
- ・ピクトグラム : プルダウンメニューから選択可能です

【ネットワーク】

- ・モード : DHCP または固定アドレスの選択が可能です
- ・IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・サブネットマスク : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・速度 : 接続するネットワークスイッチによって速度を変更することが可能です
特別な場合を除いて「Auto」でご使用下さい

【映像出力】

- ・HDCP サポートレベル : 特別な場合を除いて「Follow Sink 1」でご使用下さい
HDCP の互換性に問題がある場合に設定を変えることで改善される場合があります
- ・解凍バージョン : TX の圧縮バージョンと同じ設定にして下さい

【音声】

- ・HDMI オーディオ出力ソース
 - … HDMI 音声（映像追従） 映像に付随している音声を出力します
この設定の場合は音声のマトリクス設定は無効になります
 - … HDMI 音声 音声のマトリクス設定で選択ができます
映像とは独立して経路を選択することができます
 - … HDMI ダウンミックス音声 音声のマトリクス設定で選択でき、マルチチャンネルを
2チャンネルにダウンミックスします

【RS 232】

- ・通信速度 : 2400/4800/9600/19200/38400/57600/76800/115200 から選択できます
- ・データビット : 6/7/8 から選択できます
- ・ストップビット : 1/2 から選択できます
- ・パリティ : None/奇数/偶数から選択できます

※ 伝送不具合などが起こった際にどのデバイスに不具合が起きているかが容易に判別できるよう、実際のデバイスとの対応がわかりやすいデバイス名の設定を推奨します。

2.4 操作画面

2.4.1 映像

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「映像」を選択後、TX、RXの交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

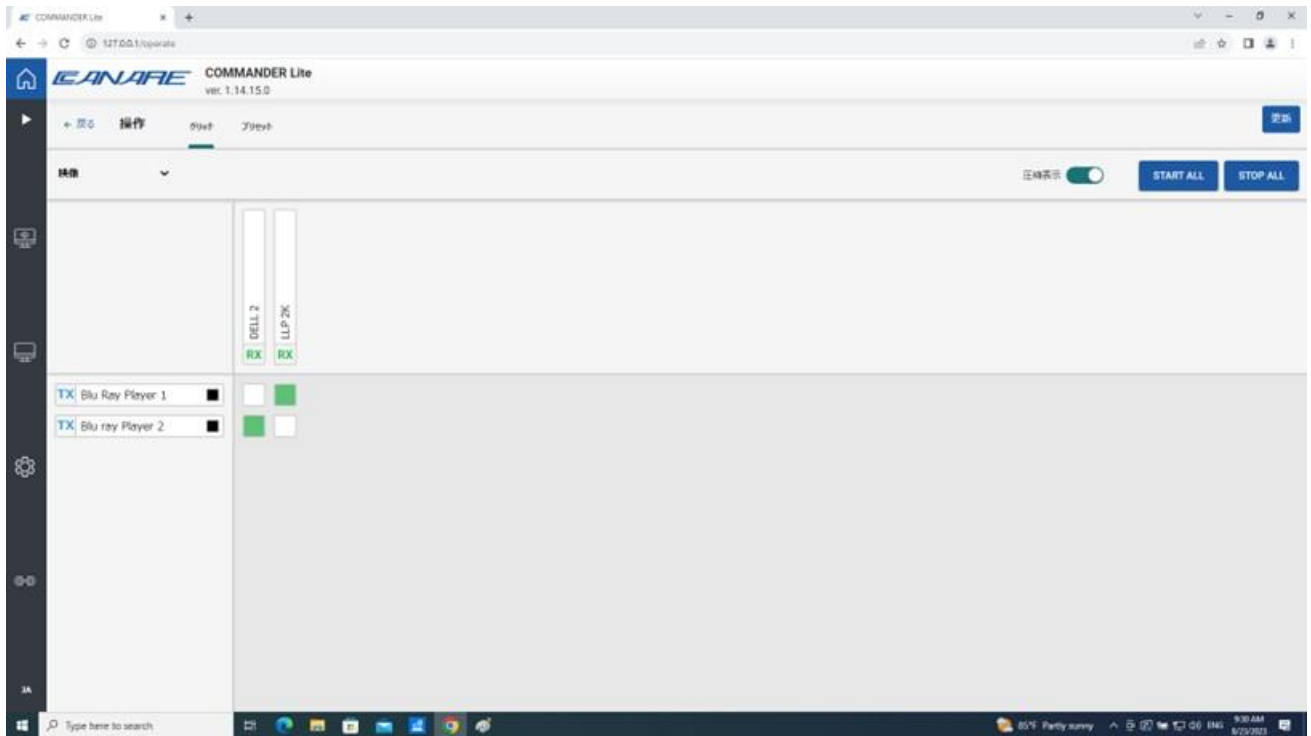
下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。



- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② マトリクス圧縮表示（次ページ図参照）
- ③ すべての送信器からの信号をオン
- ④ すべての送信器からの信号をオフ
- ⑤ 接続状態を更新

「マトリクス圧縮表示」ボタンをクリックすると下記のような表示になります。

※ マトリクス圧縮表示機能は、「音声」「RS-232」「RS-232 コマンド」を選択した場合にも有効です。

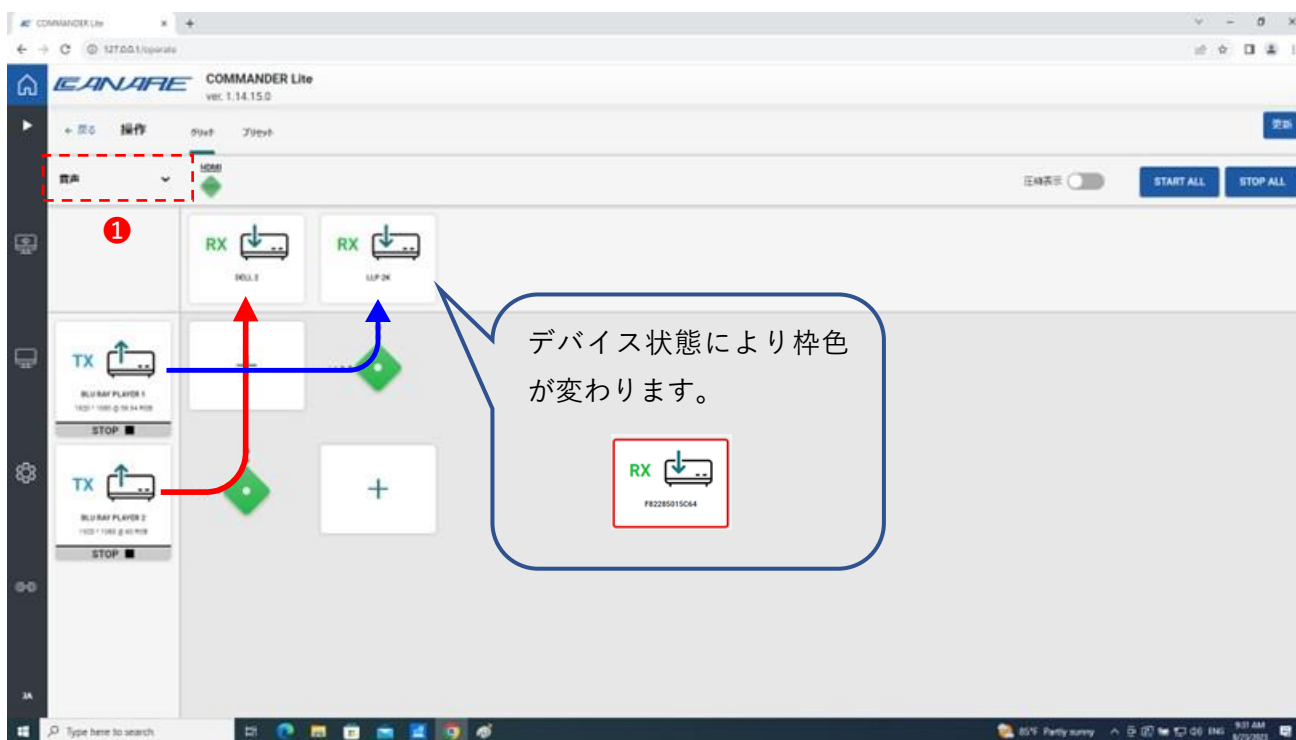


2.4.2 音声

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「音声」を選択後、TX、RXの交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。

※ 音声伝送する場合には、必ず「基本設定」画面にて「HDMI 音声」のチェックボックスにチェックを入れてください（2.5節参照）。



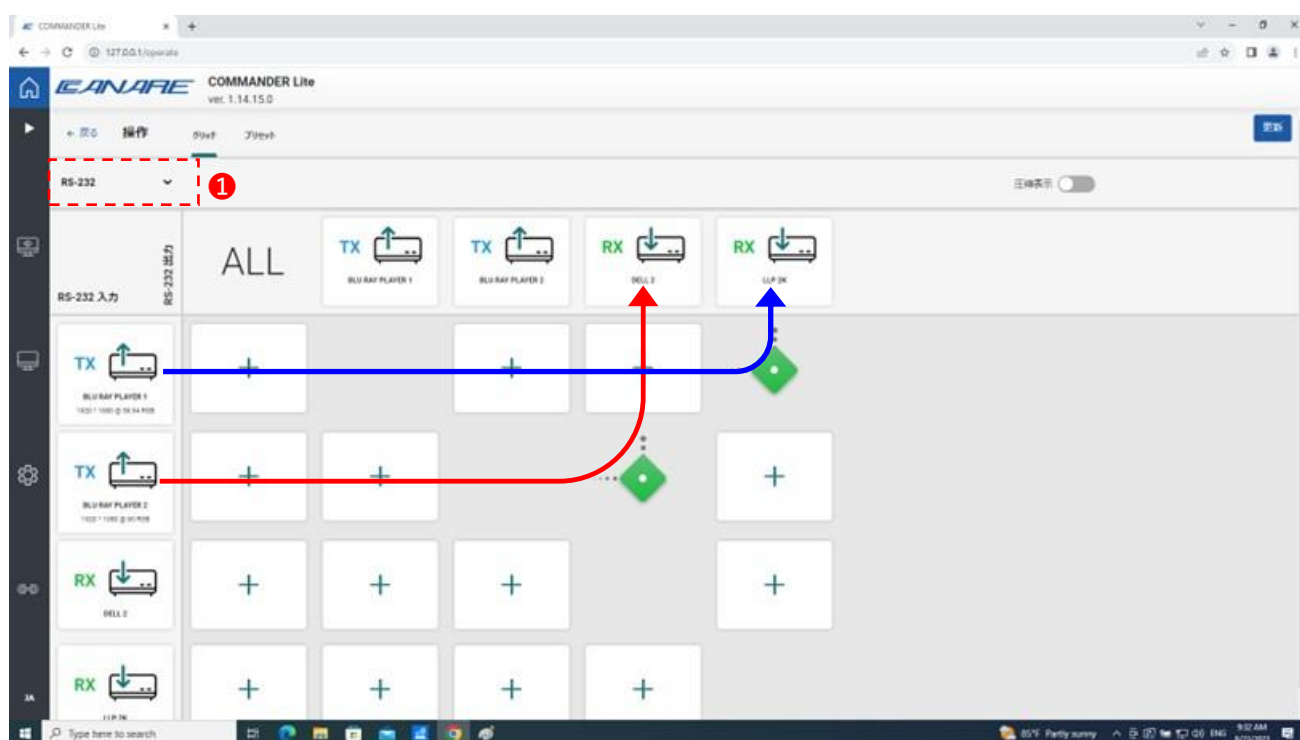
① 伝送信号選択プルダウンメニュー

2.4.3 RS-232

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「RS-232」を選択後、TX、RX の交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。

「ALL」の列にある格子点をクリックした場合には、他のすべてのデバイスに RS-232 信号が伝送されます。

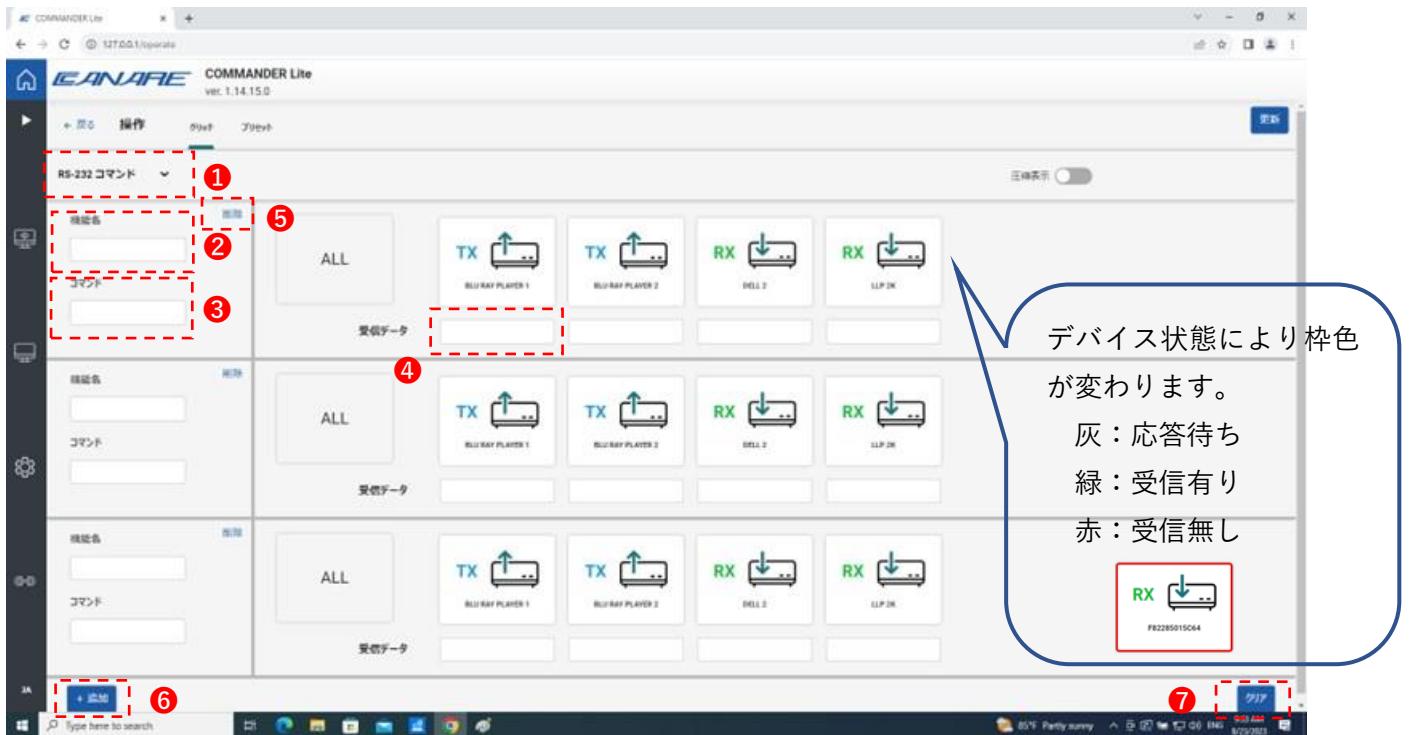


① 伝送信号選択プルダウンメニュー

2.4.4 RS-232 コマンド

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「RS-232 コマンド」を選択します。

②「機能名」、③「コマンド」を入力後、伝送したいデバイスのアイコンをクリックすることによりコマンドが伝送され、その後、④「受信データ」欄に伝送されたデバイスからの受信データが表示されます。



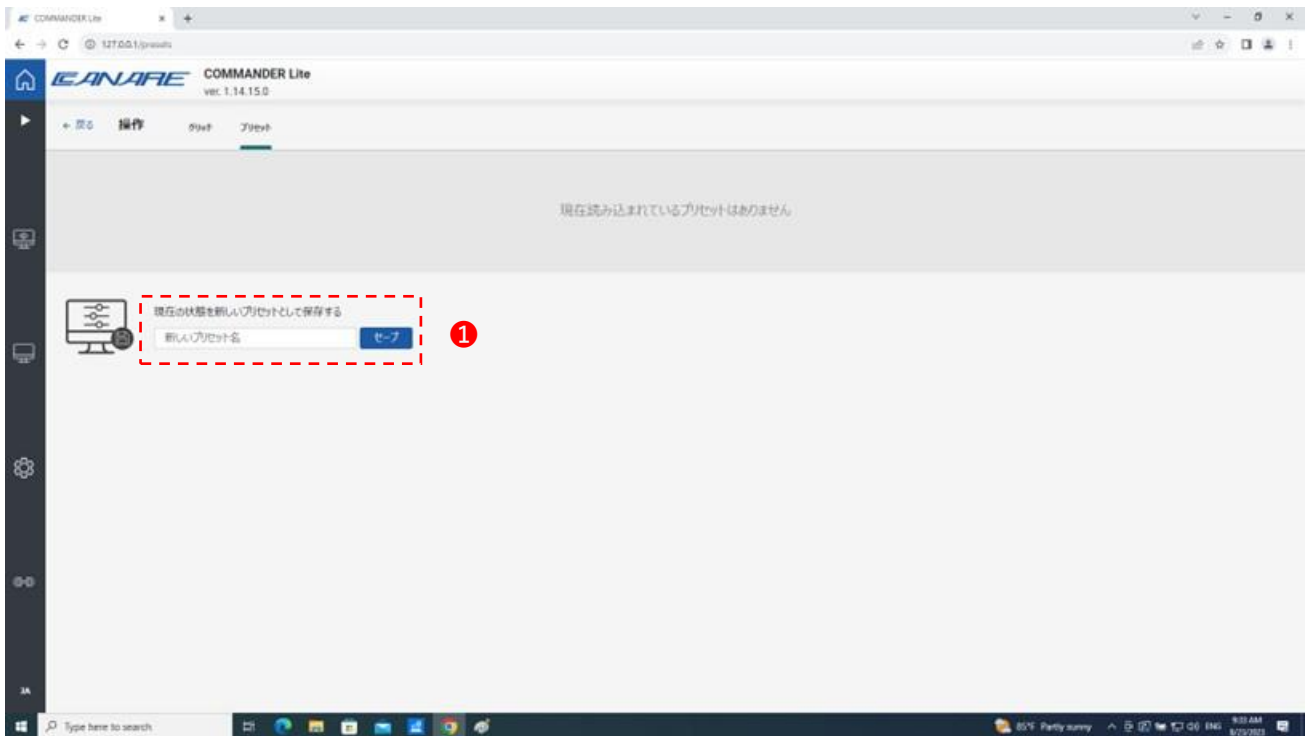
- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② 機能名称 : コメント欄ですので、特に入力しなくても問題ありません
- ③ コマンド : RS-232 で伝送するデータを入力します (ASCII コード)
- ④ 受信データ : 送信された相手から返送されたデータが表示されます
- ⑤ 行を削除
- ⑥ 行を追加
- ⑦ 画面を初期化

※ 受信データは接続されている機器により異なりますので、詳細については機器の仕様をご確認下さい。

※ 応答待ちの状態では別のデバイスにコマンド送信を行うとレスポンス無しの状態になることがあります。

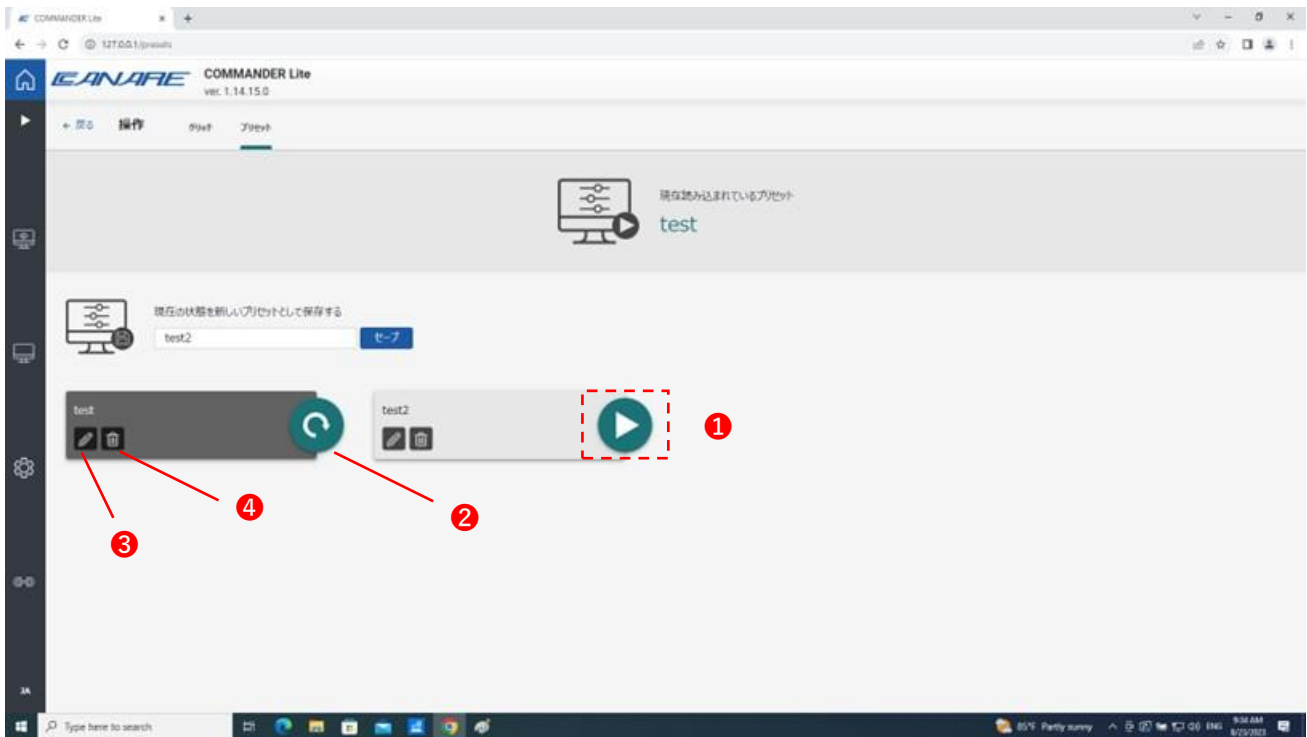
2.4.5 プリセット

現在の伝送経路状態を保存することができます。なお、デバイス名などのデバイス情報については、デバイス自身に保存されます。



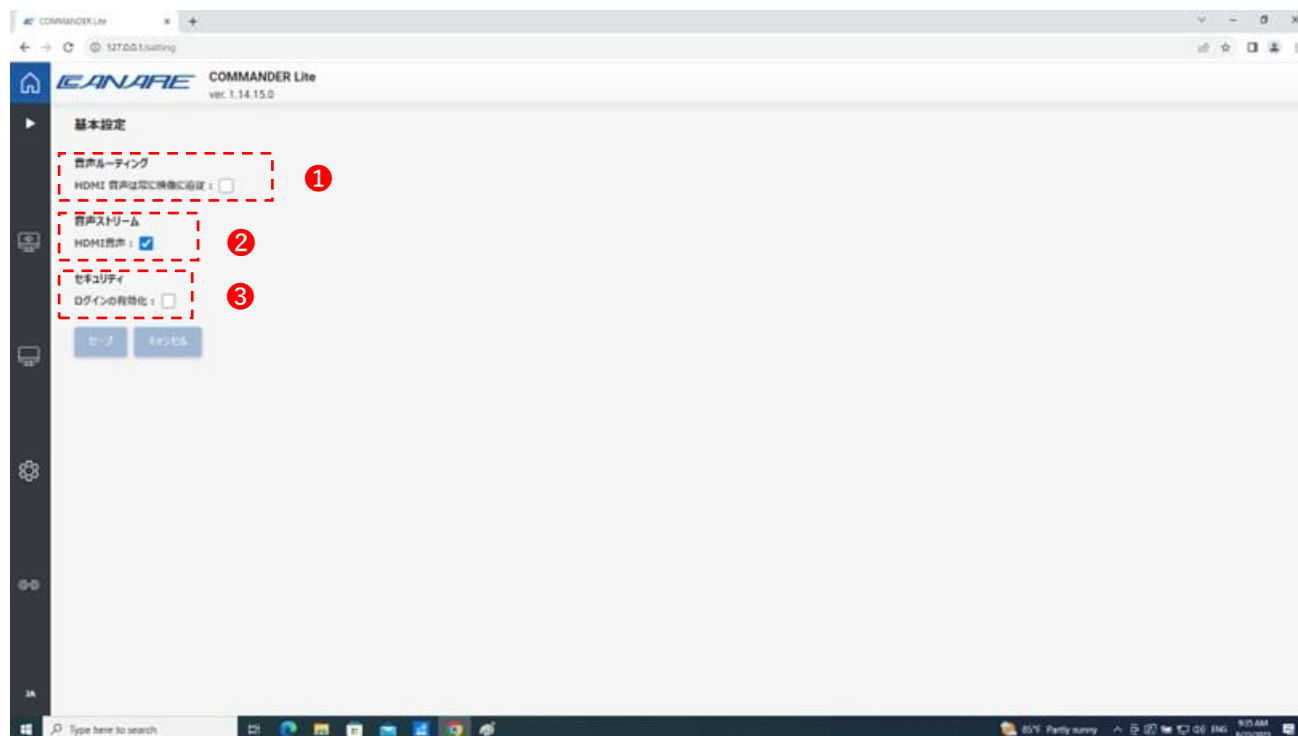
- ① プリセット名を入力

下図は「test」というプリセットが選択された状態です。①ボタンをクリックすることにより、記録された別のプリセット状態に戻すことができます。



- ① プリセット読出し
- ② 現在読込まれているプリセット
- ③ プリセット名変更
- ④ プリセット削除

2.5 基本設定画面



① 音声ルーティング設定

… 【チェックした場合】

音声は映像と同じ伝送経路に設定されます。映像経路を変更した場合、自動的に音声経路も変更されます。

「2.3.2 設定 RX の設定」で映像追従以外に設定されている場合、「2.4.2 音声」の設定で任意に音声経路の変更が可能です。

【チェックを外した場合】

音声は「2.3.2 設定 RX 設定」で映像追従以外に設定されている場合、「2.4.2 音声」の設定にしたがいます。映像経路を変更しても音声経路は変更されません。

② 音声ストリーム設定

… チェックした場合、音声伝送が可能になります。

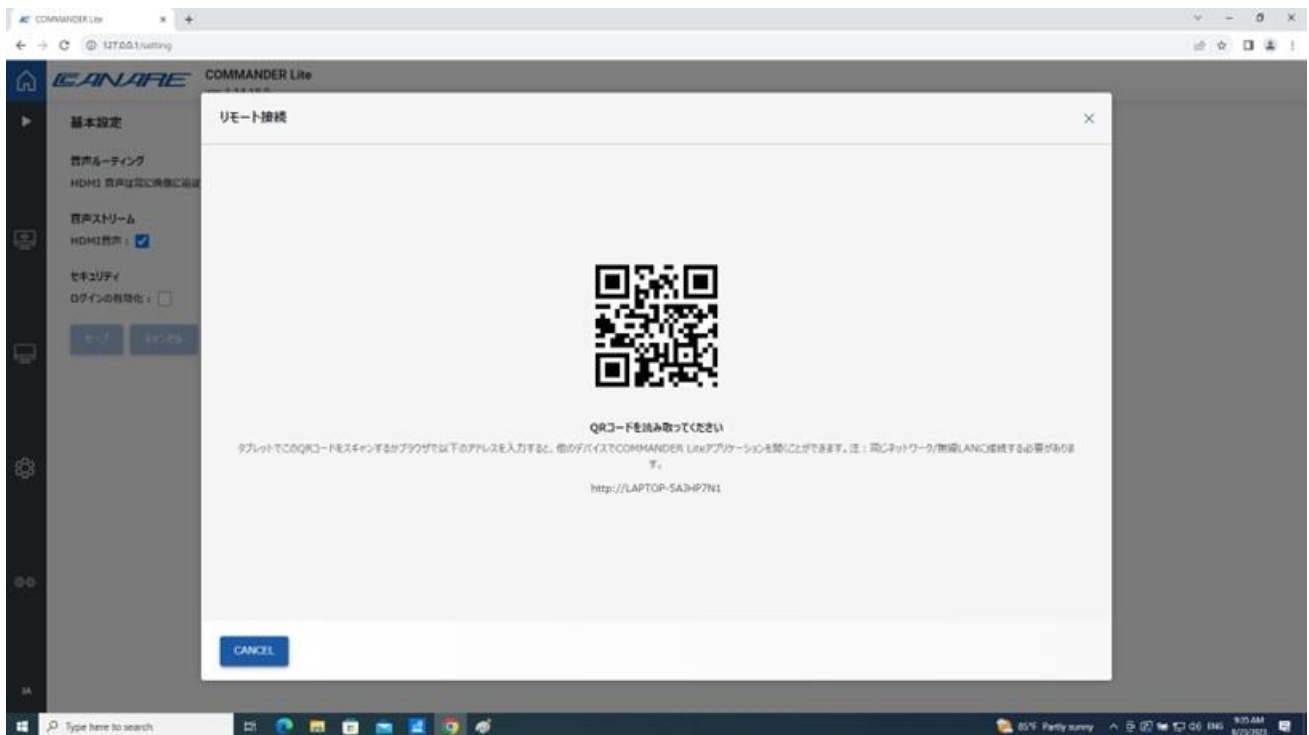
チェックを外した場合、音声は伝送されません。「2.4 操作画面」の伝送信号プルダウンメニューに音声の選択は表示されなくなります。

③ セキュリティ設定

… チェックした場合、「ユーザ名」「パスワード」が設定でき、COMMANDER Lite 立上げ時にログイン画面が表示されます。

2.6 リモート接続画面

COMMANDER Lite がインストールされた PC と同じ LAN に接続された別の PC、タブレット、スマートフォンを使用して COMMANDER Lite を使用することができます。



仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

カナレ電気株式会社

URL <https://www.canare.co.jp/>